

## 中高一貫教育校の設置について

### 1 はじめに ～ なぜ、今、中高一貫教育校か ～

- (1) 中高一貫教育校は、中学校と高等学校の6年間の学校生活の中で、創造性や豊かな個性を伸ばすことを目的として、学校教育法の一部改正により**平成11年度から導入**され、これまでに**全国で334校が設置**されています。
- (2) 本市では、**魅力ある市立高校の実現**を目指して、横浜商業高校の国際学科や横浜サイエンスフロンティア高校理数科の設置、定時制の見直しなど、高校改革を推進してきました。また、中高一貫教育校についても、平成10年度から検討を重ねてきました。
- (3) 本市が設置することによって、市民ニーズが高い中高一貫教育校を、**経済的負担が少ない公立校という選択肢として提供**することができます。

### 2 設置の意義と期待される教育効果

中高一貫教育校を設置することによって期待される教育効果は、次のとおりです。

- (1) 安定した環境の中で、生徒が6年間、**高校入試の影響を受けず**に余裕のある学校生活を送ることができます。
- (2) **6年間の計画的・継続的な教育活動**を展開することができます。
- (3) 学年の異なる生徒同士が、特別活動や部活動などの共通の活動を通し、**社会性や豊かな人間性を育成**することが期待できます。
- (4) 6年間にわたり、将来の横浜を支えていく子どもたちの**優れた才能を発見し、個性豊かにたくましく育てる**ことができます。
- (5) 6年間一貫した教育の視点に立って、**横浜の様々な分野で活躍する、志の高いリーダーとなる人材を育成**することができます。
- (6) **経済的理由にかかわらず、中高一貫教育校を選択**できます。

(裏面あり)

### 3 設置候補校

次の理由により、横浜市立南高等学校を候補校として選定しました。

- (1) 創立以来、半世紀の伝統と実績があり、**広く市民から信頼**が寄せられています。
- (2) 国公立大学への**進学実績**など、一定の評価を得ています。
- (3) 敷地面積が市立高校の中では最も広く、**施設設備が充実**しています。
- (4) 南高等学校では、これまでに「**高い学力を身につけた、将来のリーダーの育成**」を目標に掲げ、**横浜の将来を担う市民**を育てることを使命としてきました。

### 4 設置形態

中高一貫教育校の特色を活かすために、次の理由により、**中等教育学校**とすることが望ましいと考えます。

- (1) 併設型のように教育課程を2つ用意する必要がなく、生徒全員に対し一つの教育課程で6年間、系統的な指導ができます。
- (2) 併設型に比べ、より多くの授業日数を確保でき、新たな教育活動を展開することが可能となります。
- (3) 生徒全員が6年間を通じて、異年齢集団の中で、人間関係を構築することにより、社会性や豊かな人間性を育成することができます。
- (4) 一体的な職員組織を編成することで、6年間を通じて一層計画的な指導に取り組むことができます。

### 5 学校規模

**1学年4クラス、160名定員**（男女各80名）

## 参考資料

### 1 開校までのスケジュール

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
教育内容	○教育目標と教育内容の検討	○教育課程、学校行事計画の決定 ○教科書採択方針	○教科書採択	○開校 (中学校学習指導要領完全実施年)
職員配置	○職員配置計画立案	○中高の免許のある教員を配置		
施設設備	○施設改修計画立案	○施設改修の設計	○施設改修実施	
適性試験	○試作問題の作問	○試作問題公表 ○適性試験作問	○適性試験等による選抜実施	
広報	○計画公表	○学校説明会	○学校説明会	

### 2 横浜市における検討経過

- 横浜市中高一貫教育研究会議報告書  
「横浜市における中高一貫教育の在り方」について（平成 12 年 3 月）
  - ・平成 10 年度、平成 11 年度の 2 年間、文部省の指定を受け、「横浜市中高一貫教育研究会議」を設置
  - ・実践研究校として港中学校、港商業高等学校にて実践的な研究
  - ・再編整備計画に合わせ、平成 17 年度以降の設置について検討する 等
- 横浜市立高等学校再編整備計画  
～個性を伸ばし、多様な選択ができる高等学校をめざして～（平成 12 年 3 月）
  - ・単位制の導入、三部制総合学科高等学校の設置、定時制 5 校の段階的統合、科学技術高等学校の設置、国際学科の設置
  - ・学校制度の複線化を進める観点から中高一貫教育の選択的な導入について実践的な研究を進める 等
- 横浜市立高等学校再編整備計画 後期計画  
～魅力ある市立高等学校を目指して～（平成 17 年 2 月）
  - ・単位制の導入、三部制総合学科高等学校の設置、定時制 5 校の段階的統合、科学技術高等学校の設置、国際学科の設置
  - ・連携型中高一貫教育の研究に取り組む 等
- 横浜市立高等学校教育改革推進会議 答申  
～横浜市民の誇りとなる高校を目指して～（平成 18 年 6 月）
  - ・市民の期待に応えることができる横浜市立高校の実現
  - ・横浜市立の中高一貫校の検討を進める 等
- 横浜教育ビジョン 横浜市立高等学校改革推進プログラム  
～平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 か年計画～（平成 19 年 1 月）
  - ・「中高一貫教育を推進する高校」等、中高一貫教育校設置に向けた検討 等

### 3 横浜市立南高等学校の教育目標等

- 学校教育目標を「自主自立の精神を培い、調和の取れた人間の育成」とし、「基礎学力の充実と主体的に学ぶ態度の育成」、「健康な身体とたくましく生きる力の育成」、「人権を尊重した他人への思いやりと豊かな心の育成」、「将来のリーダーとなる素養の育成」を図っています。
- 教育活動の重点を、「学力の充実、学び続ける態度の育成」、「豊かな心・健康な身体・生きる力の育成」、「進路ガイダンスの充実と存在感のある単位制高校の実現」、「積極的生徒指導と教育相談」とし、教育活動を進めています。
- 教育経営の方針の1つとして、「教職員は公正な視野をもち社会動向を敏感にとらえて市民の教育ニーズに積極的に応える」を挙げ、時代の変化にも対応しようとしています。

### 4 第三者評価

平成 20 年度に実施した、第三者による「横浜市立高等学校評価委員会」によると、南高等学校は、4 段階評価（優れている、良い、おおむね満足、要改善）の中から「良い」という評価を得ています。

#### 【評価委員による、主な講評】

- 学校行事や部活動も活発で、生徒、保護者の評価は「ほぼ満足」となっている。教職員もそうした要求に一生懸命応えようとしており、その努力と熱意に敬意を表したい。
- 他校に先駆けて平成 16 年度から学校評価に取り組み、P D C A サイクルにより学校改善に積極的に取り組んできた様子が伺える。
- 授業内容の精選、説明・指示の的確化、教材の工夫など、一層の授業改善が今後取り組むべき課題である。
- 進学実績は一定の成果を上げてはいる。しかし、学校行事や部活動に偏りが見られ、生徒の学力を伸ばしきれていない傾向が伺われる。
- 客観的な学習環境と入学してくる生徒の質は高いのであるから、南高校にはより水準の高い教育効果を期待できると思われる。個人及び教科や学年での研修を一層盛んにし、授業力の不断の向上に期待する。市立高校として、さらに特色ある教育を展開し、生徒の夢を大きく広げる場となることを期待したい。